

新指定文化財について

花巻市有形文化財として、新たに庚申塔^{こうしんとう}2基を指定しました。

平成27年2月27日に開催された花巻市文化財保護審議会において諮問し、答申を受け、平成3月25日の教育委員会議で議決されました。花巻市指定文化財としては121番目と122番目になります。

○指定物件と指定理由

①北湯口八坂神社^{やさかじんじやしょうめんこんごうぞうこうしんとう}青面金剛像^{かんせい}庚申塔^{こうしんとう}（寛政元年[1789]建立）

八坂神社^{やさかじんじやしょうめんこんごうぞう}青面金剛像^{こうしんとう}庚申塔^{しょうめんこんごうぞう}は、市内に所在する庚申塔^{こうしんとう}896基の内青面金剛像^{しょうめんこんごうぞう}が彫られた2基の内の1基です。建立年代^{こんりゅう}や建立者が明確で、貴重な歴史資料と認められます。

②宮野目田力^{たちからしょうめんこんごうぞうしちこうしんとう}青面金剛像^{こうしんとう}七庚申塔^{こうしんとう}（明治22年[1889]建立）

宮野目田力の^{しょうめんこんごうぞうしちこうしんとう}青面金剛像^{しょうめんこんごうぞう}七庚申塔^{こうしんとう}も^{しょうめんこんごうぞう}青面金剛像^{こうしんとう}を持つ庚申塔^{こうしんとう}の1基で、北湯口のもの同様に建立年代、建立者が明確である上、明治期の石工の名工である多田元治^{ただげんじ}の作であることがわかっています。また、基本に忠実な作りで、庚申塔^{こうしんとう}の研究上価値が高い資料です。

※庚申信仰とは、60日に一度巡ってくる庚申^{こうしん}（かのえさる）の日の夜に行われた道教の影響を受けた風習で、平安時代の貴族社会においては、この夜を過ごす際、碁・詩歌・管弦の遊びを催す宴を開くのが貴族の習いであった。江戸時代には民間信仰として広がり、庚申の夜には近隣の講中の人々が集まり、夜通し宴会を開き、ささやかな楽しみとした。庚申塔は、この行事を祀る記念碑である。

<担当 教育部 文化財課 45-1311 内線 353>